

いま、先生にとって必要な場所

漆山 晶博（滋賀支部 中学校）



1 ルーシー誕生秘話

2018 滋賀大会を終えた後の支部総会で、支部ニュース「はぐくみ」の編集方針を話し合っていた時のことです。支部には、若い会員が県内に点在しています。日常的に例会に参加できない会員も少なくありません。新たに支部長の任に就くことになった私は、自分にできることは何だろうかと考えていました。

そのとき「日々の悩みを交流できるコーナーを作ってみては…私でよければ担当するよ」と思いつきで発言してしまったのです。「漆山さんが答えているとわからないように架空のキャラを作ってみては…」などと話は盛り上がりました。こうやって誕生したのが「ルーシーのお悩み相談室」です。現在、8回目を連載中です。

ちなみにルーシーとは、私の似顔絵を3年間ずっと、遊びながら描き続けた女子グループのメンバーたちが、私につけた愛称です。

2 相談室に寄せられる悩み

『最近、私は一部の子どもたちから「〇〇（名前）ちゃん」と呼ばれています。先日、そのように呼ばれているのを聞いていた他の先生に、指導するように

と言われました。私は、呼ばれ方は気にしていなかったのですが、指導するべきなのでしょうか…』

なぜ、このような「疑問」が若い先生の中に生まれるのでしょうか。それは、学校が先生を、先生として育てる場所になりえてないことを示しています。

子どもが先生のことを愛称で呼ぶことの是非は別として、【先輩教員→（指導）→若い教師】の構図が、この質問者の「悩み」を増幅させてしまっているのです。

この呼称問題を【先輩教員→（雑談）←若い教師】という構図で見るとどうなるでしょう。きっと、若い先生の本音が引き出され、先輩教員の経験と知恵が語られることで、互いの成長が促されるはずなのです。

さて、こんな学校が今どれだけあるでしょうか。

3 教師として成長できる場所??

初任者研修が制度化されたのは、S63教育公務員特例法の改正によってです。中学校では、平成2年度から実施されています。この年に私は正式採用されていますので、初任研1期生となります。すなわち、私より下の世代の先生は、すべてこの研修制度の下で、教師として成長

してきたわけです。

さらに、その後、経験年数によるステージ研修（〇年研修）、様々な指導力向上研修、職場内 OJT と、S63 改正法で確立された教員の研修システムは、校内外にわたりさらに強固なものへと変化するとともに、主幹教諭の設置・業績評価制度の導入へと教員の管理統制システムとして完備されていきます。

さあ、あなたは、このような施策の中で、順調に教師として成長していけそうですか。

4 教師として成長できる場所！！

生徒に育てられる。保護者に育てられる。同僚に育てられる。私が初任から 11 年を過ごした学校は、まさにそんな場所でした。

教育困難校と表現された学校で、日々起こる出来事を目の前に、私は立ちすくむしかありませんでした。そんな現実の中で、なぜ、常に前を向き、少しずつでも歩み続けることができたのか。

学年部会は、単なる打ち合わせの時間ではなく、表面的な情報交換の時間でもありませんでした。なぜ、指導がうまく進まないのか、そもそもその指導は必要なのか。子どもたちの言動を深く読み取ることを基本に、小さな方針が生み出される場所だったのです。

また、職場には自主サークルが生まれていました。壮絶な日々を送る若い教師たちにとって、愚痴をこぼしあい、悩みを打ち明けられる場所が必要だったのです。そこは、互いの自己肯定感を高めあう場所であるとともに、明日の展望を見

出す学習の場でもありました。

こうやって、私は教師として成長してきたと思っています。

4 本講座の役割

冒頭紹介したルーシー誕生秘話は、これまで述べてきた問題意識（源流）、すなわち「教師として成長できる場所がないのだったら創り出すしかない」から生まれ出た取り組み（支流）だと言えます。

今回、冬大会講座担当の依頼を受けたときは、正直驚きました。「同志会全国研究局も、ここまで現場に下りてきたか」と感慨深さでいっぱいでした。

A から N までラインアップされた各講座の内容を見てみると、明らかに本講座だけ異質です。保健・体育の授業論ではなく、部活・行事・生徒理解など広く学校教育にかかわるテーマ設定でもありません。

単に「日頃の悩みの相談室」です。しかし、いま先生にとって必要な場所は、こういう場所なのです。自分の悩み（疑問・問題意識）を雑談的に話すことのできる場所がありますか。他人の悩みに耳を傾けながら、自分ならどうするかを考えることのできる場所がありますか。

「みんな悩んで教師になろう！」この講座に参加した先生方と明日の活力を分かち合いたい。さらに、全国各地にこんな取り組みを広げていきたい。民間教育研究団体としての体育同志会をさらに発展させたい。

さあ、参加人数にかかわらず温かく濃密な時間をともに創り出しましょう。